

スーパー・サイエンス・ハイスクール（令和4年度指定）の中間評価について

スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の中間評価は、指定期間5年のうちの3年目の学校について、SSH企画評価会議協力者（外部の有識者）による研究開発の進捗状況等の評価を受けることとなっています。この評価により、各学校がその時点における研究開発等の内容を見直す機会とし、事業の効果的な実施を図ることを目的とするものです。昨年度は本校も対象となっており、令和7年2月1日に文部科学省からその評価結果が公表されました。以下はその抜粋です。公表された中間評価結果については下記URLを御覧ください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01330.htm

○中間評価の結果について総括（全6段階評価 本校は下線部、上から4番目の評価）

- ・「優れた取組状況況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、さらなる発展が期待される」0校
- ・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される」7校
- ・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる」9校
- ・「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される」29校
- ・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われる所以、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される」2校
- ・「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパー・サイエンス・ハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われる所以、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」0校

総合評価

項目別評価の結果を合計し、6段階評価を行った。一定程度以上の高い評価を受けた学校が34.0%、一層の改善努力が求められる学校が61.7%、このままでは研究開発のねらいを達成することが難しいと思われる学校が4.3%であることが認められた。なお、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成が困難であると思われる学校はなかった。

※桐生高校に対する個別の中間評価結果は次ページ

【Ⅳ期3年目】のSSH中間評価結果について

Ⅰ 中間評価の結果

研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- Ⅲ期目から、対象生徒を全生徒にし、事業推進のための組織を「理数科部」から「資質・能力育成部」に広げてⅣ期目も同様に実施する等、教員間の意思疎通を意識して推進していることは、評価できる。
- 令和3年度の桐生女子高校との統合に伴う教員の異動より、探究活動の指導力が課題となっているが、運営指導委員を講師として研修を実施する等、その課題に対して対応していることは、評価できる。
- Ⅳ期目の指定校として、卒業生を TA (Teaching Assistant) として探究活動に参加を促す等、卒業生の SSH 事業への一層の活用を期待する。

② 教育内容、指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- 育成したい資質・能力を明確化して探究活動を指導し、理数科以外での教科科目においても課題解決に向けての資質・能力を高める授業改善をしていることは、評価できる。
- オリジナルテキストの「学びの技法（基礎編）」を活用し、生徒・教員の共通理解に貢献していることは、評価できる。

③ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- 地域機関や大学との連携による探究活動の深化に積極的に取り組んでいるとともに、他の高等学校との協力体制も構築することにより、地域の SSH 事業を牽引していることは、評価できる。
- 地域貢献力育成を図る「桐生学」は桐生市役所と連携したユニークな取組で、市役所所員による講義やフィールドワークを実施し、地域や群馬大学と連携して地域課題・環境問題の解決に向けた地域ネットワーク構築が進められていることは、評価できる。
- 部活動は発表会やコンテストへの参加、イベントへの参加等活発に活動しているようであるが、今後、県外・国外におけるイベント参加を目指すような部員の増員を期待する。

④ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

- オリジナルテキストの「学びの技法（基礎編）」、「学びの技法（実践編）」を県内の学校に紹介し、成果の普及に努めていることは、評価できる。
- 他校校長・教員を招聘しての「桐生高校探究シンポジウム」の開催や、開発教材の配布、視察校やメディアの受入等、群馬県への成果普及活動を積極的にしていることは、評価できる。今後はⅣ期の指定校とし、全国的な活動を実施することを期待する。

⑤ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されている】

○ SSH 指定校の情報交換会の開催や、理科教員の加配措置等、人的・物的支援を行っていることは、評価できる。

○ 群馬県内に留まらない成果の発信を、管理機関として学校の支援をすることが必要である。